

所属・資格 史学科・教授

申請者氏名 古川 隆久

研究課題		日本近現代史像の再構築
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>近現代日本の政治及び社会や文化の構造や実態、それら相互の関連性について、2016年刊の拙著『昭和史』（ちくま新書）で示した見通しをふまえ、政治史を中心に歴史学的により深く考察することを通じて、日本近現代史像の再構築をめざす。</p> <p>昨年度に引き続き、古川が分担者として参加している科研費の作業が優先となるので、国策音楽の製作に関わった京極高鋭の評伝執筆の準備を進めながら、政友会代議士前田米蔵についても史料収集を進め、可能であれば、前田の出身地和歌山県への史料調査を行う。並行して、「日本近現代史における室内楽」についても史料収集を継続しつつ、研究ノートや資料紹介のような形で研究の中間報告をめざす。その他、日本近現代史像の再構築の手掛かりとするため、外国史、前近代の日本史、史学史や歴史理論、政治学・経済学・社会学・民俗学・文学・音楽・美術など、隣接分野の最新の研究成果の吸収にもつとめる。</p>
	研究の結果	<p>本研究課題に関わるものとして、所属するメディア史研究会からの依頼で、同会2022年度研究集会〔第二部 メディア化する君主制〕での報告「天皇制・政治・メディア」を論文化し、『メディア史研究』53号に掲載された。</p> <p>また、従来古川の知見を一般向けに還元するものとして、鈴木淳・山口輝臣・沼尻晃伸編『日本史の現在』第6巻（山川出版社、2024年4月刊行予定）に「戦時体制をどう見るか」を寄稿した。また、論文「太平洋戦争期の前田米蔵」を執筆した。これで、前田米蔵の研究はほぼ完成するので、学術雑誌には投稿せず、既刊の前田米蔵についての諸論文と合わせて著書としての刊行を目指す。</p>
	研究の考察・反省	<p>科学研究費補助金「田島道治文書の翻刻と研究」分担者としての業務が見込みより増加したため、「日本近現代史における室内楽」については、研究ノートや史料紹介等の執筆に至らなかったため、来年度はその実現を目指す。それ以外については所期の目的を達成した。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 「天皇制・政治・メディア」（2022年9月3日、メディア史研究会2022年度研究集会「第二部 メディア化する君主制」、zoom開催）	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>研究成果物 学術論文（単著） 「天皇制・政治・メディア」（『メディア史研究』53号、2023年2月）10～26頁 史料集（筆頭編者、翻刻と校訂） 古川隆久・茶谷誠一・富永 望・瀬畑 源・河西秀哉・舟橋正真編・NHK協力『昭和天皇拝謁記』全7巻（岩波書店）、第2巻（2022年2月）291頁、第3巻（2022年4月）303頁、第4巻（2022年6月）297頁、第5巻（2022年8月）319頁、第6巻（2022年12月）336頁 その他（歴史教育について） 「歴史総合に期待するもの」（『山川歴史PRESS』第9号、2022年8月）1～5頁</p>	